

つきやま てっぺい

築山 鉄平

「20年先を見据えた歯科医療のイノベーションを考える」

-真の患者利益、真の歯科医療の価値を実現するために-

講演内容：

21世紀に入ってから科学技術の進歩は目を見張るものがあります。1990年代から2010年代にかけて携帯業界、自動車業界、IT業界に代表される様に、革新的な製品開発が進み社会の有り様を大きく変えてきました。イノベーションというところのような劇的な技術的革新を連想してしまいましたが、考え方や視点を変える事で起こるイノベーションがあります。Facebookなどが良い例で、本来個人間のやりとりを主目的とするソーシャルネットワークサービスとして開発されましたが、「アラブの春」と言われる一連の中東における民主化運動では、過剰な言論弾圧の中クーデターの貴重な連絡網として用いられ民主化の第一歩を演出しました。

一方、現代の歯科界におけるイノベーションとは何でしょうか？治療においてはデジタル歯科学、歯科用マイクロスコープなど最新の技術が導入されていますが、我々国民の口腔健康状態が根本的に改善されているとは思えません。様々なデータが示すように本来口腔内の疾患が重度に進行している人の割合は少なく、医療の本質がいかに関与し、患者の口腔健康状態を長期間維持し、疾病を予防していくかという視点に立てば、残り多くの人々にとって健康利益をもたらす歯科医療こそが歯科界のイノベーションなのではないでしょうか。例えばその1つの可能性が定期メンテナンスです。ただここでいう定期メンテナンスは狭義の「定期的な口腔衛生指導やバイオフィルムの破壊と除去」のみではなく、患者の全身健康管理にまで積極的な関わりができる広義の医療メンテナンス通院を意味します。全ての患者は同じでないという前提に立ち、我々はオーダーメイド医療の時代においてプロフェッショナルな歯科医療従事者としてその先に行く機会を得ています。本講演では、どのような医療スタイルが今後創造できるかを歯科先進国の医療スタイル、日本における医療を取り巻く社会情勢をふまえてお話致します。